

## 化学工業日報

認可)

# 肌のキメ測定自動数値化

ポーラ | 新診断システム開発  
東京理科大

ポーラは18日、東京理科大学との共同研究で肌のキメを評価する新規診断システムを開発したと発表した。画像解析技術から、皮膚表面の凹凸を短時間で自動的に数値化する。今後、化粧品の有

用性評価や顧客対象の肌分析に応用していく。また今回の開発を受け、肌レプリカの評価を現状の倍となる10段階にまで細分化した。同システムを応用することで、

従来の肌レプリカ診断は、斜光による陰影の判定と専門員の目視評価が主流だったが、新規開発システムは1画面を2秒で診断するため、肌テータ蓄積の効率化にもつながる。

目視評価との相関関係も見いだしたことから、商品開発や顧客対応肌診断システム「アパックスアイ」などに取り入れていく予定。研究成果は、26日に東京で開催される「日本化粧品技術者会研究討論会」で発表される。

同社は、キメの細やかさを判断する肌表面の皮溝と皮丘に着目。従来店頭診断で採取していた肌表面のレプリカ画像に、明色と暗色を自動で区別する「十字2値化法」と、同大学工学科の小林宏教授が開発した「短直線マツチング法」と呼ばれる画像解析法を用い、溝の長さや本数などを数値で正確に導き出すことが可能にした。